

第9章 その他の編集上の配慮事項

- ・該当学年での学習のポイントに応じて、レイアウトを考慮する必要がある。これは、例えば、小学校3年生での地図は、初出なのでできるだけ分かりやすいレイアウトを工夫するなどである。(146 ページ)
- ・写真の中でも重要なものが拡大した文字によって隠れないように配慮する。(194 ページ)
- ・文字が背景の図の図柄、線などと重なっている場合は、背景の図柄、線などを削除する。(196 ページ) (198 ページ)
- ・背景のノイズ(斜線等)と図やグラフ等全体のコントラストが、図やグラフ等が見えにくい主な原因となる。特に社会ではそうした図やグラフ等が多く、単純な拡大や部分的な手直しでは難しいものも多くある。今回は、そうした図やグラフ等について、打ち直しのコストとの関係で修正のレベルに濃淡があった。しかし、可能であれば、社会では図やグラフ等を見やすくすることが最も重要な点でもあり、コストを考えなければ打ち直しをした方がよいものが多い。
- ・顔のイラストが複数あるときには、吹き出しに顔を入れる位置を統一して、文字の読み出しの位置を同じにする。(200 ページ)
- ・顔のイラストつき文章で吹き出しタイプでないものは、顔と行を一致させ、かつ、顔のイラストごとの文章の行間をあける。(202 ページ)
- ・社会科地理など、その写真や図、特に地図など、横長のものが多く、原本の多くの部分で横向き(正位置ではない)で拡大して示す必要がある場合には、本文などの文字も横向きとし、拡大本全体を横向きとし、上下にページを開く装丁にする。